

1 本年度の教育目標

① 学校教育目標

よく学び、心豊かで、たくましい児童生徒の育成

- ② 具体的目標
- | | |
|---------------------|------|
| ○自ら学び、深く考える児童生徒 | (知育) |
| ○心豊かで、思いやりのある児童生徒 | (徳育) |
| ○健康で、たくましい児童生徒 | (体育) |
| ○意欲を持ち、最後までやり抜く児童生徒 | (意欲) |

③ 学校経営方針

- (1) 教育課程の進化
(社会に開かれた教育課程、小中一貫教育、PDCAによる学校評価)
- (2) 教科指導の充実
(主体深学、若スタ型授業の定着、道具としてのICT、補充・家庭学習)
- (3) 道徳教育の充実
(生き方教育、ローテーション道徳、SOSの出し方教育)
- (4) 生徒指導・特別支援教育の充実
(学年担任制、ダイバーシティの視点、教育相談、校内支援体制)
- (5) 福祉教育・地域連携の推進
(ボランティア活動、地域行事・人材との関り、CSシステム構築・活用)
- (6) 生徒会活動の推進「Let's Love 大好き若中」
(若中文化の継承と進化、SDGsの進化、児童会生徒会の連携)
- (7) 部活動の活性化と持続可能な指導体制の構築
(自主的自発的活動、持続可能な運営体制、地域活動・生涯学習への接続)

2 自己評価結果から総合評価への総括

○肯定評価は (A: そう思う B: ややそう思う) とする
△否定評価は (C: あまりそう思わない D: そう思わない) とする

- ① 総合評価 A 『 十分達している 』
肯定評価 A + 肯定評価 B = 80%以上 且つ肯定評価 A = 50%以上
- ② 総合評価 B 『 概ね達している 』
肯定評価 A + 肯定評価 B = 80%以上
- ③ 総合評価 C 『 やや不十分 』
肯定評価 A + 肯定評価 B = 60%以上 80%未満
- ④ 総合評価 D 『 不十分 (要改善) 』
肯定評価 A + 肯定評価 B = 60%未満

3 評価の見方（判定の見方、評価点の見方）

（1）判定（総合評価）の見方

総合評価（A・B・C・D）については、「自己評価結果から総合評価への総括」を参考にする。基本的には肯定的な評価（A：そう思う・B：ややそう思う）の合計を基準にして、その割合で総括をしている。

しかしながら、否定的な評価（C：あまりそう思わない・D：そう思わない）は割合に含まれないために、この数値に配慮しながら結果を考察しなければならない。

（2）評価点の見方

参考資料として、『A：そう思う＝2点・B：ややそう思う＝1点・C：あまりそう思わない＝－1点・D：そう思わない＝－2点』として、その合計を“評価点”としている。これは、上記総合評価では含まれなかった否定的な評価をも含む点数であるため、全ての回答が点数に反映されており、より詳細な全体傾向がわかるとともに、複数の評価対象の比較をすることで、評価対象ごとの傾向もつかむことができる。

2点に近いほど肯定率が高く、0点以下は否定率が高いこととなるが、アンケートの回答は多くの“あいまいさ”を含んでいるため、数値にこだわることよりも、全体的な傾向を得るための参考として使用することが望ましいと考える。

4 その他

（1）A・B・C・Dの4観点での評価

アンケートに対する回答としては様々な考え方や方法があるが、例えば5観点にして、中間回答である「どちらとも思わない」を含めると、日本人の場合にはその国民性によるものと思われるバイアスがかかり、中間回答が多くなる傾向になる。

一方、自分の意見をはっきりさせるという意味で4観点による回答は意味のあることではあるが、設問内容をしっかり理解していないと答えられないという欠点もある。

特に保護者アンケート（後期のみ）については、学校の様子を見る機会や場が制限されているため「E わからない」という観点を設け、A・B・C・D・Eの5観点での評価とした。